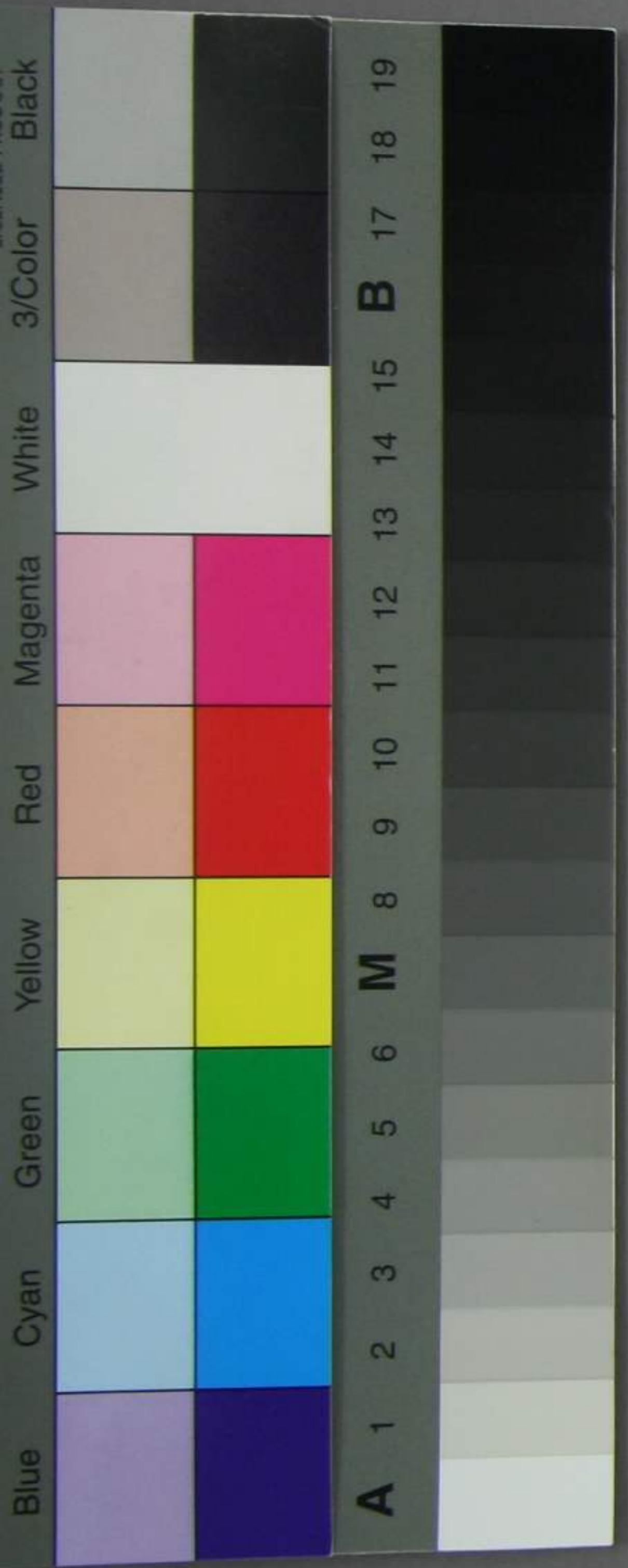


海軍行政制度改革意見

海軍行政ノ要タニ他ナシ主トシテ通商貿易ヲ提擧監
 督スルニ在リ果シテ然ラハ則テ海軍行政ハ高事行政
 ノ一端ニ属スル素ヨリ論ヲ強クシテ何トナレハ現行高
 法員ニ編ニ規定スル所ハ専ラ海高ノ保護取締ニ関ス
 ルヲ以テナリ是ニ於テ守凡ソ何等ノ國ト雖モ高事ノ
 範圍内ニ属スル行政事項ハ其海高ニ関スルト一般高
 業ニ関スルトツ向ハス大抵一國經濟ノ主幹廳ヲシテ
 之レヲ統一監督セシメザルハナシ然レニ本邦従来ノ
 制度ニ從ハハ海高ニ関スル行政事項ハ逓信省ニ於テ
 統轄シ一般高業ニ関スル行政事項ハ農商務省ニ於テ
 統轄シ其主幹劃然而立シテ未タ統一ノ監督廳一定セ
 ナルモノアルニ似タリ是レ豈妥當ノ制度ト謂フ可キ



ンヤ

是故ニ諸般ノ高事行政ヲ網羅シテ一官廳ノ主管ニ附
シ以テ其行政ノ統一ヲ計ルハ最モ當然ノ事タリ信
不然レハ従来ニ於ケルカ如ク郵政ノ主管廳即チ逓信
省ヲシテ高事行政ノ一部ニ屬スル海事行政ヲ統轄セ
シムルハ極メテ不可ナリ他ナシ郵政ト高政トハ全然
其性質ヲ異ニシ決シテ之レヲ混一スルヲ能ハサズ
ノナレハナリ若シ強テ之レヲ混一セハ行政分業ノ原
則ニ背馳シ従テ又農商勞務逓信ノ兩者ヲ併置スルノ必
要アリト見サレナリ

然リト雖モ運輸通信ハ素ト逓信省ノ管掌スル所而シ
テ海高ハ海運ヲ該テ其目的ヲ達スルモノナレバ故
以一点ニ因縁附會シ逓信省ヲ以テ海高ヲ管轄スルニ

正當ナル官廳ト看做ス者或ハナキニ非ス惟フニ近年
逓信省創立ノ際故ラニ管船局ヲ本省ノ所管ニ附シタ
ル理由モ亦多シ以邊ニ存スルナレト雖モ元來海
事行政監督ノ目的ハ海高ニ在リ而シテ海運ハ之レニ
伴フ自然ノ結果トス他辭以テ之レヲ言ハハ則チ海運
ハ海高範圍内ノ一分業ニシテ其目的ヲ達スル手段ニ
過キス故ニ以テ二者ニ就テ本末輕重ノ區別ヲ論スレハ
海高ハ本ニシテ海運ハ末ナリ然レニ以テ觀易チ事理ヲ
是レ察セス海事行政ノ監督權ヲ舉テテ逓信省ニ附シ
タルモノハ要スルニ只其末ニ馳セテ能ク其本ヲ究メ
サレ杜撰ノ舉措ニアラサレトセシヤ
之レヲ歐美列國ノ例ニ徴スルニ高政ト郵政トハ劃然
其主管ヲ異ニシ毫モ之レヲ混一セサレハ若明ノ事ニ

之ヲ現ニ高務者若クハ高工務者ト連信者トシ併置セ
 ン英佛等ノ諸海國ハ高務者若シクハ高工者^等ヲ以テ海
 事行政ノ主管聽ト定メ未タ高務者若シクハ高工務者
 ヲ設ケサハ北米合衆國ノ如キハ大藏省ヲ以テ海事行
 政ノ主管聽ト定メ而シテ本邦ニ於ケハ如ク連信者
 ヲシテ海事行政ヲ統轄セシムモ未タ之レアルヲ
 見ス幸ニ本邦ニ在リテハ農工商監督ノ目的ヲ以テ特
 ニ農商務省ヲ設置ス然ラハ何ヲ高事行政ヲ分割シテ
 故カラニ其主管聽ヲ二ニシ其監督ノ統一ヲ紊乱ス
 ルノ理アラシヤ況ヤ郵政廳ヲシテ高事行政ノ一部タ
 ル海事行政ヲ監督セシムル如キハ結局不當ノ制度タ
 ルヲ免レサハヤ今左ニ欧米列國ニ於ケル海事行政
 ノ主管聽ヲ列挙シテ其然ハヤ否ヤヲ証スルノ資料ニ

供スヘシ

英吉利	高務者	佛朗西	高工務者
奧太利	高務者	露西亞	高工務者
字魯士	高務者	和蘭	高務者
合衆國	大藏省	以太利	海軍省

是レニ由リテ之レヲ觀レハ郵政廳ヲシテ海事行政ヲ
 監督セシムルハ列國ニ類例ナキ制度ニシテ曠ニ理論
 上不可ナルノミナラス亦高事行政ノ統一ヲ缺キ實際
 監督上不便ナキヲ免レサハ論ヲ強タス幸ニ現政府
 ハ此大政變ノ機會ヲ相シ諸般ノ行政ヲ整理セラレハ
 ト洵ク故ニ此際海事行政ノ管轄權ヲ連信者ヨリ分離
 シテ更ニ之レヲ農商務省ノ所管ニ附スルハ良舉且必要
 ノ事ト認ツ可シ而シテ海事行政廳ヲ轉移スルニ就シ

ハ同時ニ管船局并ニ船舶司換所海負審判所其他港務
局ノ官制ヲ改正シ以テ大ニ執務ノ方法ヲ簡易ニスル
ヲ要ス請フ其理由ヲ左ニ詳述セン

現行制度ニ據レハ海軍行政機關幹部(即チ管船本局
并ニ船舶司換所海難審判所及ニ三港々務局)ノ全員二
百四十一名ニシテ其内兼任ヲ排除スルモ現員百九十
二名ノ多キニ達ス而シテ其幹部タニ管船局直屬員ハ
局長一名(勅任)課長三名(内一名勅任)事務官司換官十一
名(奏任)屬官二十七名合計五十二名ニシテ之ニ雇員
ヲ加フレハ各處六十名内外ノ向ニアリ然レニ字内ノ
大海關タル英國ノ如キハ海軍行政事務官即チ管船局ノ現員局
長一名技師十名書記四名合計十五名ニシテ之ニ船
船舶負登籍署所屬ノ吏員三十四名ヲ加フルモ總計四

十八名ナリトス又米國ノ如キハ海務局ノ現員局長以
長書記佐ハ合セテ僅々八名ニ過キス是レニ由リテ
之レヲ觀レハ我海軍行政幹部ノ人員夥多ナルヲ粗ホ
之レヲ推知スルニ足ル可シ此ノ如ク夥多ノ人員ヲ要
スルハ畢竟事務分擔ノ實ナキ所以ニシテ仮令外課ヲ
設クルモ課長以下ノ高等官ハ從ニ尙敬ノ空位ヲ守リ
專心事務ニ鞅掌スル者稀ニシテ實際ノ事務ハ大小難
易ノ別ナリ大概之レヲ屬官ニ委シ重複ノ手数ヲ要ス
ルカ爲リ是レ改正ヲ要スル理由ノ一ナリ

海軍行政機關ノ冗員夥多ナルハ獨リ其幹部ニ止ラス
其支部ニ於ケルモ亦然リ即チ船舶司換所ノ如キハ地
方海負審判所ノ人員ヲ合セテ百二十九人ノ多キニ至
ル柳ニ船舶ノ検査其他海負ノ試験審問ニ他ノ行政事

務ト均シク時ニ繁閑ナキニアラスト雖本邦今日ノ
現況ハ未タ司換所ヲシテ執務ニ忙殺セシムル程ノ際
盛ニ至ラス從テ實際多數ノ司換所ヲ要セス然レニ近
時司換所任用法ヲ忌避シ海軍ノ學識經驗ナキ者ヲ司
換所ニ任用シ太甚シキニ至リテハ政文タル解セヤ
者ヲ以テ船舶司換所長ト爲シ情弊ノ纏綿ニ所令ヤ
其極度ニ達セリ乃チ司換所審判所ヲ設クハ多ク冗
員アリ所以ニシテ其所屬員中日々齟齬トシテ換査試
験審問ニ從事スル者幾何ニアラナク若シ之レヲ以
テ誇大ノ言ナリトセハ請フ實地ニ就テ執務ノ現況ヲ
熟視セヨ必ス自カラ釋然タム所アルハ是レ改正ノ
要スル理由ノ二十リ

且ツ其レ今般新設ニ係ル横濱神戸長崎三港ニ於ケル

港務局ノ如キハ冗員ノ夥多ナルヲ殊ニ最ニ太甚シキ
モノトス何トナレハ各港ニ要スル定員ハ港長一名港
務官一名港務官補二名醫官一名屬五名港吏三名港吏
補七名全員二十名ニシテ單ニ港内ノ秩序ヲ維持スル
爲メ歟ノ如ク夥多ノ人員ヲ備フルモノハ政令列國中
未タ之レアルヲ見ス元來港長ノ職掌ハ港則ニ從テ船
舶ノ出入港ヲ監督シ或ハ碇泊船ノ位置ヲ指定シ或ハ
暴風火災ニ際シテ碇泊船ニ警戒ヲ與フル等唯港内ノ
秩序ヲ維持スルニ過キス(仮令港長ヲシテ港内衛生ノ
事ヲ兼掌セシムルニ港長屬吏ノ外醫官看護手四五名
ヲ要スルニ至リ現ニ香港ノ如キスラ港内取締ノ任ニ當
レル者ハ港長一人副港長一人(副港長燈稅徵收官ヲ兼
任ス然レモ同下員ニ屬ス)ニシテ別ニ港吏屬官ヲ置カ

若し其レ改革列國中地方ニ港務監督署ヲ置キ之レ
 ヲシテ港ニ港内秩序ノ維持ニ止ラズ餘ノ海事行政
 事務ニ從事セシムル場合ニ在リテハ港長ノ外通例屬
 僚兩三名ヲ置クニ過キス然ルニ本邦ノ制度ニ據レハ
 要港ニ司檢所ヲ置キ之レヲシテ船舶ノ検査海負ノ試
 験審判等ヲ掌ラシムルニ拘ラズ又別ニ港務局ヲ置キ
 埠ニ港内ノ秩序ヲ維持スルヲ爲メ斯ノ如キ數多ノ吏
 員ヲ備フハ唯冗員ヲ養フニ過キテハ是レ改メ
 ン要スル理由ノ三ナリ
 以上叙フヘカ如キ理由ナレバ故ニ官船局ノ組織ヲ改
 正シテ分課ヲ廢シ局員各自ノ技能ニ應ジテ事務分擔
 ノ宜ク全クセシメ凡ソ學藝技術ニ関スル事務ハ高等
 官各自ニ責任ヲ帶ビ庶務會計ノ外一切ノ事務ヲ屬官

ニ委セザンモノトシ加フルニ港務局ヲ廢シテ港長事
 務所ヲ置キ大ニ從來ノ定員ヲ減シテ執務ノ方法ヲ簡
 易ニスルニ實際執務上別ニ妨ナキモノ、如シ試ニ今
 其改正ノ方法ヲ舉ケルハ概畧左ノ如シ

- 本局
- 局長 一名
 - 航海運轉專門技師 二名
 - 檢閱專門技師 一名
 - 造船專門技師 一名
 - 制法檢査事務官 二名
 - 詞訟檢査事務官(審判、檢案官) 一名
 - 庶務檢査官 十五名
 - 會計檢査官 五名

合計

二十八名

高等審問廷構成

審判長	一名
技師	二名
詞訟事務官	一名
合計	計五名

東京司換所

航海技師 内一名所長兼任

二名

機関技師

二名

造船技師

一名

法律家

一名

庶務員

二名

會計席

二名

合計

十一名

地方審問廷

航海技師 兼任所長

一名

機関技師 同上

一名

計二名

法律家 同上

一名

大阪司換所 職員東京二回

地方審問廷 構成東京二回

函館司換所

航海技師 所長兼任

一名

機関技師

一名

造船技師

一名

法律家

一名

庶務員

二名

會計屬

合計

二名
八名

地方審問廷 構成東京：同
長崎司換所 職員函館：同
地方審問廷 構成東京：同

橫濱支所

航海技師 所長

機関技師

造船技師

庶務屬

會計屬

合計

一名
一名
一名
二名
一名
六名

審問廷

主任 支所技師兼務

參事 同上

一名
一名
計二名

新潟支所

航海技師

機関技師

庶務會計屬

一名
一名
一名
計三名

審問廷 構成橫濱：同

島羽支所 職員新潟：同

審問廷 構成橫濱：同

境支所 職員同上

審問廷 構成同上

神戸支所 職員同上

審問廷 構成同上
 審問支所 職負同上
 審問廷 構成同上

港長事務所

港長

一名

醫官

一名

庶務員

一名

會計員

一名

港吏

二名

看護手

五名

合計

十一名

之レヲ要スルニ本案ノ目的ハ列國普通ノ制度ニ準シ
 高事行政ノ統一ヲ主トシテ海事行政ノ管轄權ヲ轉移
 シ即チ通信省ヨリ管船局ヲ分離シテ農商務省ニ附シ
 同將ニ海事行政機關ノ組織ヲ改正シテ大ニ之レヲ緊
 縮シ毫ニ兩省遊職ナカラシメンコトヲ期スルニ在リ果
 シテ斯ノ如クナレハ則チ一方ニ於テハ海事行政ノ主
 管處ニ歸一ヲ得テ監督上ニ便宜ヲ興ヘ他方ニ於テハ
 冗費ヲ汰シ冗費ヲ省キ隨テ國家ノ經濟ニ利スル所ア
 ルヲ以テ庶幾クハ行政整理ノ目的ヲ達スルノ一端ト
 ナラン乎惟フニ行政整理ニ關シテ政府ノ企圖スル所
 蓋シ事業上ノ改革ニ在リ吾人ノ希望スル所ニ亦然リ
 然レハ海事行政廳ノ管轄及ヒ其組織ニ於テ大体ノ方
 針ヲ懲ルレ既ニ大ニ叙ツルカ如シ故ニ之ニ事業ヲ改

事セシトセハ豫メ先ツ其官制ヲ改革セザルヲ得ズ否
ラナルハ到底行政整理ノ効ヲ全フスル能ハサルヘシ
是レ以改正方案ノ実行ヲ主張スル所以ナリ若シ其レ
海事行政ノ監督ヲ要スル事業上ノ改正方案ハ更ニ異
日ヲ俟テ提出スル所アラハトス以段建議仕候也

明治卅一年九月

年 田 豊

内閣總理大臣伯爵大臣大隈重信殿閣下